

5 その他の水質調査結果の概要

5.1 全窒素及び全リン

富栄養化の原因物質とされる全窒素、全リンは、河川 28 水域 32 地点、湖沼 4 水域 8 地点、海域 5 水域 7 地点で測定した。測定結果は参考資料 5 に示す。

(1) 河川

河川において、全窒素の最大値及び平均値が最も高かった地点は、浅野川下流の鞍降橋で最大値は 13mg/L、平均値は 4.2mg/L であった。

また、全リンの最大値が最も高かった地点は、市の瀬用水の丸山団地前及び宇ノ気川下流の宇ノ気川橋で 0.55mg/L、平均値が最も高かった地点は、御祓川下流の仙対橋で 0.22mg/L であった。

(2) 湖沼

湖沼において、全窒素の最大値が最も高かった地点は、木場潟の木場型中央で 1.8mg/L、平均値が最も高かった地点は、河北潟の大根布放水路で 1.1mg/L であった。

また、全リンの最大値が最も高かった地点は、河北潟の河北潟中央で 0.17mg/L、平均値が最も高かった地点は、河北潟の大根布放水路で 0.10mg/L であった。

(3) 海域

海域において、全窒素の最大値及び平均値が最も高かった地点は、金沢港（甲）の泊地出口で最大値は 2.2mg/L、平均値は 0.95mg/L であった。

また、全リンの最大値及び平均値が最も高かった地点は、七尾南湾（乙）の寿町防波堤内で最大値は 0.13mg/L、平均値は 0.058mg/L であった。

5.2 特殊項目（銅、全亜鉛）

銅、全亜鉛は、梯川水系を中心に河川 13 水域 21 地点で測定した。測定結果は参考資料 6 に示す。

(1) 銅

銅の最大値及び平均値が最も高かった地点は、郷谷川の主谷川合流点下流で、最大値は 0.23mg/L、平均値は 0.14mg/L であった。

(2) 亜鉛

全亜鉛の最大値及び平均値が最も高かった地点も郷谷川の主谷川合流点下流で、最大値は 0.43mg/L、平均値は 0.29mg/L であった。

5.3 その他の項目（陰イオン界面活性剤）

陰イオン界面活性剤は、河川 11 水域 11 地点、湖沼 1 水域 1 地点、海域 1 水域 1 地点で測定した。測定結果は参考資料 7 に示すとおり、生活排水が多く流入する御祓川下流の仙対橋で、最大値が 0.26 mg/L、平均値が 0.09 mg/L となり、他の地点より高い値を示した。

5.4 水生生物保全環境基準に係る事前調査結果

水生生物保全環境基準に係る事前調査として全亜鉛、ノニルフェノール、直鎖アルキルベンゼンスルホン酸及びその塩、底層溶存酸素量を測定した。測定結果は参考資料 8 に示す。

(1) 全亜鉛

全亜鉛は、「2 特殊項目」として全亜鉛の測定を行った地点を除き、河川 44 水域 67 地点、湖沼 3 水域 7 地点、海域 11 水域 38 地点、計 112 地点で測定した。最大値が最も高かった地点は、御祓川下流の西藤橋橋及び仙対橋で 0.035mg/L、平均値が最も高かった地点は、河原田川の二ツ屋橋で 0.026mg/L であった。

(2) ノニルフェノール

ノニルフェノールは、河川 47 水域 76 地点、湖沼 4 水域 8 地点、海域 11 水域 38 地点、計 122 地点で測定したが、いずれの地点も報告下限値 (0.0006mg/L) 未満であった。

(3) 直鎖アルキルベンゼンスルホン酸及びその塩

直鎖アルキルベンゼンスルホン酸及びその塩は、河川 47 水域 76 地点、湖沼 4 水域 8 地点、海域 11 水域 38 地点、計 122 地点で測定した。最大値及び平均値が最も高かった地点は、手取川上流の風嵐堰堤の 0.011mg/L であった。

(4) 底層溶存酸素量 (底層 DO)

底層溶存酸素量は、湖沼 4 水域 8 地点、海域 7 水域 32 地点、計 40 地点で測定した。最小値が最も低かった地点は、木場潟の木場潟中央で 5.1mg/L、平均値が最も低かった地点は、河北潟の大根布放水路前の 8.4mg/L であった。